

□議員名：大井淳一郎

## 1 空き家対策について

論点	本市の空き家は年々増えてきているが、実態を正確に把握できているのか。
回答	市民等からの情報提供によって実態を把握している。それ以外にも関係各課の協力のもと、庁内からの情報収集を行っている。

論点	水道使用者情報等を活用して空き家の数を把握することは可能か。
回答	水道料金の滞納が3カ月続くと調査を始める。その際に空き家であると把握できる。

論点	税務課と連携して税情報を目的外使用することで、所有者が把握できたという事例はあるのか。
回答	税務課と連携する中で所有者が把握できたという事例は何件があるが、免税点以下のために把握できない事例も多くある。

論点	火災や犯罪を誘発するような緊急性の高い事例については、助言・指導ではなく勧告・命令・代執行などの対応が必要ではないのか。
回答	まずは不動産を巡る法律関係についてきちんとした研修が必要と考えている。そこから始めないと前に進めない。

論点	優良な空き家を活用することで定住促進につなげることができる。市は、空き家の活用についてどのように取り組んでいくのか。
回答	活用可能な空き家は、市外からの転入者を呼び込み定住を促進するためのツールとなる。地域の活性化や交流人口の増加につなげるためにも、来年3月までに空き家の実態把握も含めた一定の方向性を出していきたい。

## 2 文化財の保護と活用について

論点	ふるさと文化遺産登録制度の意義は。登録後、どのような形でまちづくりに生かしていくのか。
回答	市民に知らないまま埋もれている文化財に一定の価値づけを行なう

	ことで、市民の文化財愛護意識の向上と郷土愛の醸成を図る。説明板の設置や観光客の興味を引くストーリーづくりやマップの作成などを計画している。
--	---

論点	この度、全国から集まった有志と地域住民によって「殿町のSL」の塗装作業が行われている。塗装した後、市はこのSLをどのように活用していくのか。
回答	物自体は旧国鉄から借り受けたものであり、軽々ところしますと言えない部分がある。しかし、デゴイチは全国的にも貴重な資源であり、今後の利活用について市内で議論していくべきだと考えている。

### 3 山口東京理科大学との連携について

論点	平成18年に締結した包括連携協定に基づき、具体的にどのような連携協力事業を実施してきたのか。
回答	科学博覧会、おもしろ科学教室、理科大図書館の市民への開放などを実施してきた。今年度は観光振興ビジョンを策定する中で理科大生の意見を取り込む試みを行なった。さらに3Dプリンターを使った市民教養講座も行われる予定である。

論点	理科大が地域連携センターを設置したことを受けて、市はどのように連携強化を図っていくのか。
回答	理科大が知の拠点として地域の課題解決に取り組み、地域産業界のキーパーソン育成を教育目標としていることを受け止めて、協議を深めながら市全体の発展のため十分に連携していく。

論点	まちづくりの参画について、理科大をどのように活用していくのか。
回答	現在、審議会等に4名参加している。少子高齢化、人口減少、市街地の衰退や地元への就職率の低迷など各種課題についても理科大と色々な議論を深めていきたい。